

埋文にいかた

No. 59
2007. 7. 27

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

19年度発掘調査遺跡の紹介

にし 郷 遺 跡 (新潟市江南区茅野山3丁目2097番地1ほか)

西郷遺跡では国道49号亀田バイパスの4車線化事業(城所～茅野山間)に伴い、平成18年度から延4,450㎡について発掘調査を実施してきました。遺跡の時期は平安時代(約1,000～1,200年前)と弥生時代前期～中期(約2,400～2,000年前)に分かれます。遺跡の地層は地表から順に～層に分けられ、このうち層が平安時代、～層が弥生時代の遺物を含む層です。標高は、層が現地表面から約25cm下の0.5m、層が約2.1m下の-1.4m、層上面が約2.5m下の-1.8mです。弥生時代の層は複数ありますが、このうち遺物が多く出土するのは層と層の黒色砂層で、層が弥生時代中期、層が弥生時代前期と少量の縄文時代晩期の遺物を含みます。層で柱穴や土坑などの遺構を検出しました。層で検出された遺構の時期はおもに弥生時代前期と考えています。

層で出土した弥生時代中期の遺物には土器、石器、骨、炭化米などがあります。土器は地元の土器と共に北陸系・東北系が出土しており、当時これらの地域間に交流があったことがうかがえます。また、矢尻として使用された石鏃や装飾品である管玉が大量に出土しています。それぞれの未成品もあるので石器製作が行われていたのかもしれませんが、縄文時代晩期から弥生時代前期の層からは石鏃の出土が多いですが、層と異なり管玉やその未成品などはほとんど認められません。

弥生時代の調査成果として、以下の点があげられます。これまであまり遺跡が見つかることのなかった砂丘間低地の海拔0m以下に遺跡が存在したことから、攪乱を受けておらず、完全な形で保存されていました。このような事例は非常に珍しいことです。また、ひとつの遺跡で、縄文から弥生時代の遺物が連続的かつ重層的に出土する例は珍しく、これまで知ることでできなかった当該期の土器変遷の様子を明らかにできる可能性があります。層で検出された弥生時代前期の建物跡はこれまで発見例に乏しいことから、貴重な事例です。(土橋由理子)



層から出土した管玉・勾玉



層上面の遺構調査



層から出土した弥生時代前期の土器